

4年	科目	文学特論	講義	通年	担当	芳賀 多美子
機械工学科		literature	必修	2履修単位		HAGA Tamiko
授業の概要						
国際社会で活躍する技術者に求められる日本文化への深い造詣、日本人のものの見方・考え方に対する理解を深める。日本語表現に関する知識・技術を習得しつつ、日本文学作品の読解を通して思考力・発想力を鍛え、論理的思考の過程や感受性・情緒を豊かに表現する言語感覚を磨いていく。						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
		1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
	○	4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)	実践指針 (プログラム対象科目のみ)		実践指針のレベル (プログラム対象科目のみ)			
D. コミュニケーション能力を備え、 国際的に発信し、活躍できる能力	(D1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。		(D1-3)自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる。			
授業目標						
1. 日本語による表現についての確かな理解力・表現力を身につけ、自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を含む適切な語句を正しく用いて報告できる。(D1-3)						
授業計画						
第1回	ガイダンス	教育目標・授業概要・評価方法等の説明				
第2回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第1課「ことばと表現を知ろう」				
第3回	文学作品読解	「坊ちゃん」夏目漱石				
第4回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第1課「ことばと表現を知ろう」				
第5回	文学作品読解	「最後の一句」森鷗外				
第6回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第1課「ことばと表現を知ろう」				
第7回	文学作品読解	「鼻」芥川龍之介				
第8回	前期中間試験					
第9回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第2課「話してみよう」				
第10回	文学作品読解	「清兵衛と瓢箪」志賀直哉				
第11回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第2課「話してみよう」				
第12回	文学作品読解	「よだかの星」宮沢賢治				
第13回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第2課「話してみよう」				
第14回	文学作品読解	「路傍の石」山本有三				
	前期末試験					
第15回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第3課「敬語・敬意表現を使おう」				
第16回	文学作品読解	「名人伝」中島敦				
第17回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第3課「敬語・敬意表現を使おう」				
第18回	文学作品読解	「赤い繭」阿部公房				
第19回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第4課「書いてみよう」				
第20回	文学作品読解	「おきみやげ」幸田文				
第21回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第4課「書いてみよう」				
第22回	後期中間試験					
第23回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第5課「分析と考察をしよう」				
第24回	文学作品読解	「途中下車」宮本輝				
第25回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第5課「分析と考察をしよう」				
第26回	文学作品読解	「沈黙」村上春樹				
第27回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第6課「就職活動の準備をしよう」				
第28回	文学作品読解	「さがしもの」角田光代				
第29回	日本語表現	『大学生のための日本語表現実践ノート』第6課「就職活動の準備をしよう」				
	後期末試験					
第30回	まとめ	試験解説/1年間のまとめ/授業評価				
評価方法 と基準	4回の試験の平均を80%、課題提出を20%の重みとして評価する。授業目標(D1-3)が標準基準(6割)以上で、かつ科目全体で60点以上の場合に合格とする。評価基準については、成績評価基準表による。					
教科書等	『現代文学名作選』(明治書院)、『大学生のための日本語表現実践ノート』(風間書房)					
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に科目担当教員へ連絡してください。					